

東京オリンピック・パラリンピックの横浜市が目指すものについて 統計家ができること

横浜市市民局スポーツ統括室 オリンピック・パラリンピック推進部 沼上 直輝

横浜市市民局スポーツ統括室 オリンピック・パラリンピック推進部 大庭 伸仁

横浜市立大学・データサイエンス学部 小泉 和之

【はじめに】

横浜市では、アジアで初めての開催となるラグビーワールドカップ2019の決勝を含む7試合が行われ、オリンピックにおいてもサッカーや野球・ソフトボール競技が行われます。横浜市は、ラグビーワールドカップとオリンピック・パラリンピックという2つの世界的なスポーツイベントが連続して開催されることによって、世界の注目が集まるこの大きなチャンスを生かし、横浜の魅力や活力を世界に発信していきたいと考えています。そのため、両大会を契機に、経済界、関係団体などの皆様と一緒にしたオール横浜の指針として、大会に向けた基本姿勢や取組の柱、取組から生まれるレガシーなどをまとめた「横浜ビジョン」を、平成28年11月に策定しました。

【取組の方向性】

「横浜ビジョン」に掲げる4つの柱に基づき、将来の横浜市のまちづくりに向けた取組を推進し、さらなる飛躍とレガシーの創造を目指していきます。

(柱1) 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

〈レガシー〉ボランティア文化の醸成・定着など

(柱2) スポーツを通じて横浜を元気に

〈レガシー〉スポーツ実施状況の向上など

(柱3) 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

〈レガシー〉「文化芸術創造都市 横浜」のプレゼンス向上など

(柱4) 横浜を世界に魅せる

〈レガシー〉「国際的なMICE都市」の実現など

これらの一連の取組を通して、目標として掲げたレガシーが達成できているのか、データサイエンスの観点から客観的に検証することで、その後の取組に反映させていく必要があると考えています。

〈取組例〉

・「外国人の行動分析」

外国人観光客が何を求め、どのような動きをするのか。

・「横浜の魅力向上」

横浜の魅力・欠点は何か、シティセールスのためには何が有効なのか。

・「ボランティアの裾野拡大」

ボランティアのきっかけ、活動の定着のためには何が有効なのか。